事例No.	1225
公表年度	R2
団体の属性	中核市
団体名	福井県福井市

事例区分	地域活性化

タグ	・移住定住 ・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	移住促進

事例内容・タイトル

ターゲットを明確にした各種施策を展開

出典

「地方への人の流れの創出」に向けた効果的移住定住推進施策事例集

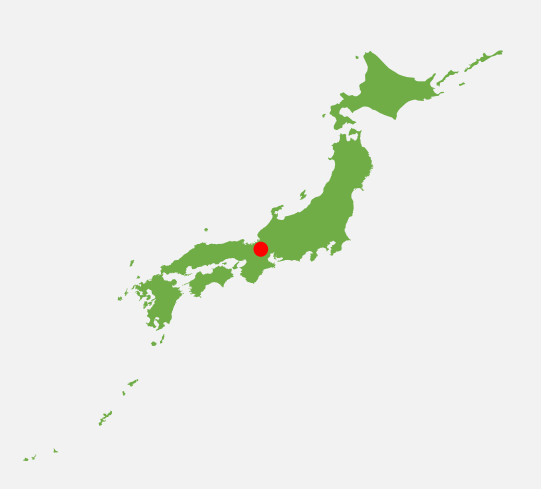
（5）福井県福井市　ターゲットを明確にした各種施策を展開

■福井市の取り組みの特長・ポイント

- ◆ 週末就活という**週末を利用した現地企業訪問施策を実施。**市の職員と一緒に地元企業3社を訪問する。
- ◆ リモートワークをしている人、医療・介護職の人、若い世代、子育て世代等、**ターゲットごとに補助金を加算する制度を設け、地元が欲しい人材をうまく移住につなげている。**
- ◆ **地域との関わり度合いが低い段階から移住に至るまで、関係人口の裾野拡大と移住までのステップを意識した各種施策を展開している。**

■分類

地域	立地特性	人口規模	時間距離
中部	市街地・雪・海・山	小 26.3万人	中 3時間30分



■特徴的なフェーズ



【仕事】
週末を使って市職員と一緒に地元企業を訪問する「週末就活」を実施。

【移住関心層への広報】
移住に至る前段階の人たちに対して、地域との関わり度合いに応じて幅広い施策を展開。

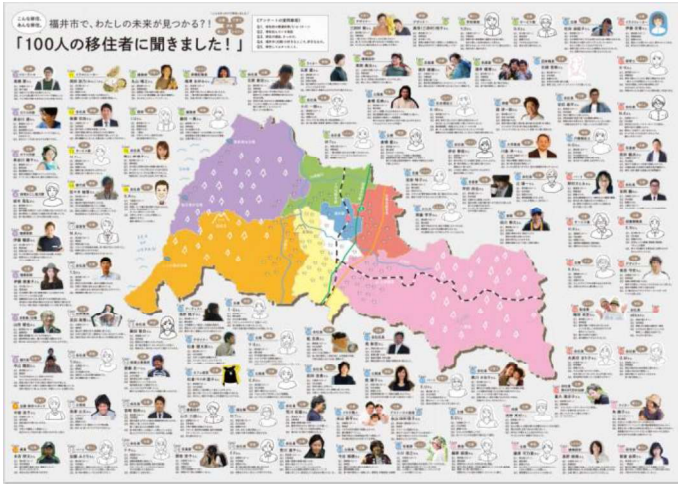
■移住定住施策の取り組み体制

- **主管課**
  - 未来づくり推進局移住定住推進室（室長1名、担当2名）
- **協力体制・現在の体制に至るまでの経緯等**
  - 移住定住推進室ができるまでは、まち未来創造課においてイベントでの出展・相談業務をメインに担当していたほか、複数窓口がそれぞれ連携しながら事業を進めていた。
  - 2020年4月にそれらを取りまとめる総合窓口として移住定住推進室を設置。
  - 同室は各課支援への引継ぎ、支援金の支給、総合パンフレットの作成等を担当。

■関心を持ってもらうため、関心を持った人への情報提供のための取り組み

① 移住関心層への広報・②情報収集段階

- 関心を持っていただく取り組みとして、移住ガイドと総合パンフレットを作成。
- 移住相談した方に対して、市の移住定住施策にご協力いただけるかのアンケートを事前にとっており、そこで承諾した人を対象に取材。移住ガイドには **100名程の移住者の体験談を掲載している。**事務所や県Uターンセンター、移住イベント等で設置している。また、データはホームページにも掲載している。



図：福井市移住ガイド【U&I　TURN‘S　GUIDE】
出所：福井市ホームページ
http://www.city.fukui.lg.jp/sisei/plan/connect/uitrunsguide.html

■具体的な検討を始めた人への「仕事」「住まい・生活」「心理面」でのサポート

③ 仕事

週末就活

- 週末就活という**週末に現地企業を訪問する転職者向けの施策を実施。**
- 金曜日または金・土曜日を利用して福井に来てもらい、**1日または2日かけて2～3社を市の職員と訪問する。**
- 訪問者には宿泊費・交通費を一部助成している。
- 訪問先は、しごと支援課が運営しているサイト「ふくいおしごとネット」やハローワークに求人を出している企業から市職員が訪問先を提案し、訪問者に選定してもらう。
- **家族の同伴も可能**で、希望に応じて企業訪問の間に現地の生活環境を確認することができる。



図：週末就活のプログラム日程例
出所：福井市週末就活チラシより抜粋
https://www.city.fukui.lg.jp/sigoto/syoukou/koyosokusin/syumatu-syukatu_d/fil/tirashi.pdf

ターゲットごとの補助金

- 移住の**ターゲットごとに補助金を加算する対象を定めている。**
- 2020年度のみ、リモートワークを伴って移住する方に対して5万円加算、移住して医療・介護職に就業した方に10万円加算している。
- その他の対象者および支給額については下表の通り。
- 若い女性が都会に出て、帰ってこない現状があり、そこにポイントを絞った支援を継続している。2020年度は、女性向けの補助金の開始もあり相談件数は例年の3倍以上になっている。

表：移住支援金（全国型）の支援内容

「市内」で就業・起業した方		「市外」で就業・起業した方	
対象者	支給額	対象者	支給額
18歳以上50歳未満の単身者	100,000円	18歳以上50歳未満の単身者	50,000円
18歳以上40歳未満の女性	150,000円	18歳以上40歳未満の女性	100,000円
単身者以外の世帯	200,000円	単身者以外の世帯	100,000円
若年夫婦世帯、子育て世帯	300,000円	若年夫婦世帯、子育て世帯	200,000円

④ 住まい・生活

- 空き家関係の紹介はしたうえで、住環境の希望（電車が使える範囲、山・海　市営住宅の紹介等）を聞きアドバイスを実施している。

⑤ 心理面のサポート・⑥決断する段階

- 雪への対応を心配している人に対し、買っておくと良い雪かき用具を紹介する等、生活に密着したアドバイスも実施している。

■その他の特徴のある取り組みについて

地元の高校生・大学生を対象とした意識醸成

- 県外で進学・就職する人が将来的に地元にUターンすることを促すため、**地元学生向けに地元就職・定住の意識醸成を図る取り組みを実施**している。

＜市内高校生との共同企画・体験＞

- 現役高校生のグループを作り、福井市の魅力を再発見するために市内回遊や地域イベントを体験する等、若者が地元とのつながりを深める事業を実施している。

＜県外大学進学者への情報発信＞

- 福井市から県外大学等への進学者約3,500人に対して福井市の情報の発信や、就活イベント等を実施している。



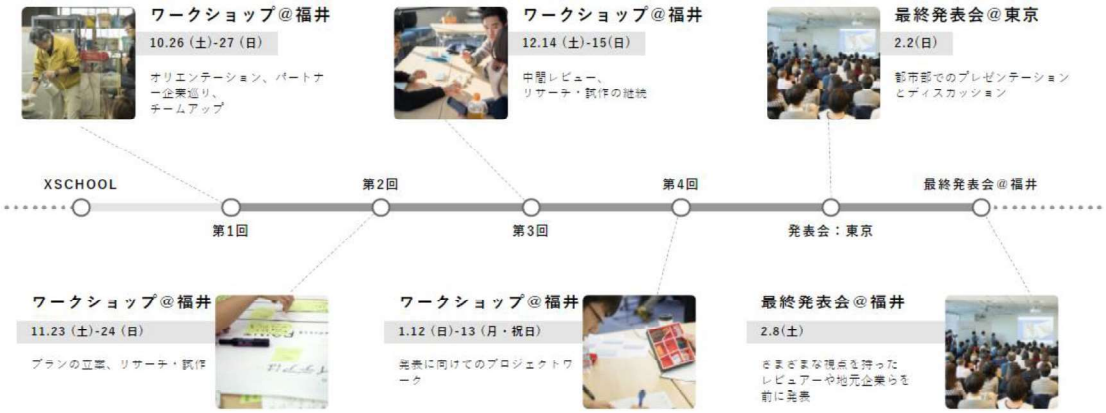
図：高校生の市内散策時の様子
出所：福井市提供

移住に至るまでのステップを意識した各種施策

- **地域との関わり度合いが低い段階から移住に至るまで、以下のようにステップを意識した各種施策を展開している。**
  関係人口交流会 ➡地域交流等を織り交ぜたワーケーション ➡ 外部人材の呼び込みに意欲的な集落を市が認定し、地域住民主体の関係人口づくりに取り組む「Welcome集落認定事業」 ➡ XSCHOOL（詳細は後述） ➡二地域活動・二地域居住等促進事業（詳細は後述） ➡（移住）

＜XSCHOOL＞

- デザイナーやクリエイター、学生等、多様なバックグラウンドを持った外部人材を参加者として公募で集め、チームを組んで福井の地域資源を活かしたプロジェクトを創出するプログラム。
- プログラム期間は2019年が120日間、2020年が80日間。地元のパートナー企業とともに、月1回程度現地のワークショップを開催する中で、プロジェクトの創出に取り組む。
- プログラム中の苦労も多いがその分福井との関係性の深まりが見られるとともに、XSCHOOLで得た構想を移住後の起業に活かした人もいる。また、事業終了後も自主的に継続して地元企業に貢献してくれる人の発掘にもつながっている。
- 事業実施にあたっては地元の新聞社とデザイン会社とのコンソーシアムに業務委託している。持続的に人の流れを生み出すためには、地元企業と行政等が連携した推進母体を持つことが重要だと考えている。



図：XSCHOOL2019のプログラム

出所：XSCHOOL2019ホームページ
http://makef.jp/archive2019/xschool-2019/

＜二地域活動・二地域居住等促進事業＞

- 離れていても持続的に福井市を応援し、関わりを深めていく機会を拡大するために2020年度に立ち上げた制度。
- 地元の各種団体等と連携した取り組みのほか、関係人口の拡大が見込まれる地域活性化や地域経済の振興に資する事業であること等を満たす事業に対し補助する。
- 2021年2月現在、2事業を支援している。実際に東京圏からの移住につながった例もある。



図：地域活動・二地域居住等促進事業の様子（二越廼地区の地域資源である水仙の価値向上を目指す活動）

出所：福井市提供

■新しい取り組み、感染症影響下での挑戦等

- 移住した後のケアとして、移住者交流会を実施予定である。また、将来的には行政が関与していないところで移住者のコミュニティが盛んになることを期待している。